

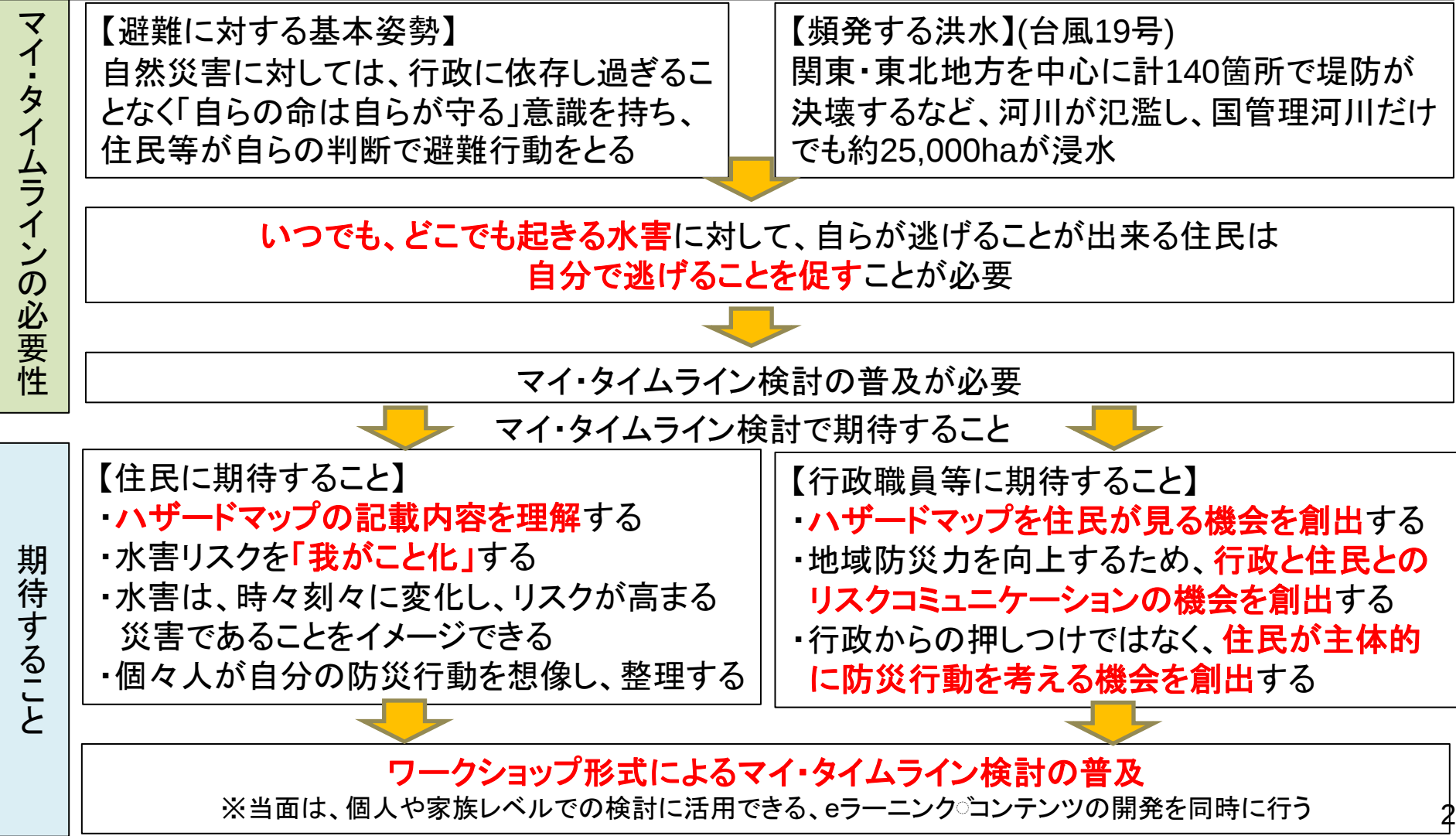
マイ・タイムライン実践ポイントブック について

マイ・タイムライン実践ポイントブック検討会（第2回）

令和2年5月

マイ・タイムライン検討の取組の必要性和期待すること(当面)

- マイ・タイムライン検討の取組では、住民が洪水ハザードマップの記載内容を理解し、水害リスクを「我がこと化」することにより、自らの避難行動を促すことが必要である。
- 地域防災力を向上するため、行政と住民とのリスクコミュニケーションの機会を創出するワークショップ形式によるマイ・タイムライン検討が望ましい。



マイ・タイムライン検討のポイント

- マイ・タイムラインの検討過程では、自治体が作成・公表した洪水ハザードマップを用いて、住民自ら洪水リスクを「知る」ことから始め、そこから「気づく」ことや自分自身に置き換えて、どういうタイミングで避難することが良いのか、どのような避難行動が必要かを住民自ら「考える」ことが重要である。
- さらに、ワークショップ形式等で実施することで、人と話すことで新たな課題やアイデアに「気づく」。

知る

自分たちが住んでいる場所の洪水リスクを知る



考える

いつ、どうやって逃げるかを考える



ハザードマップによりリスクを知る

気づく

人と話すことで新たな課題やアイデアに気づく



他者の意見を聞いて、気づき、見直す
【ワークショップ形式】

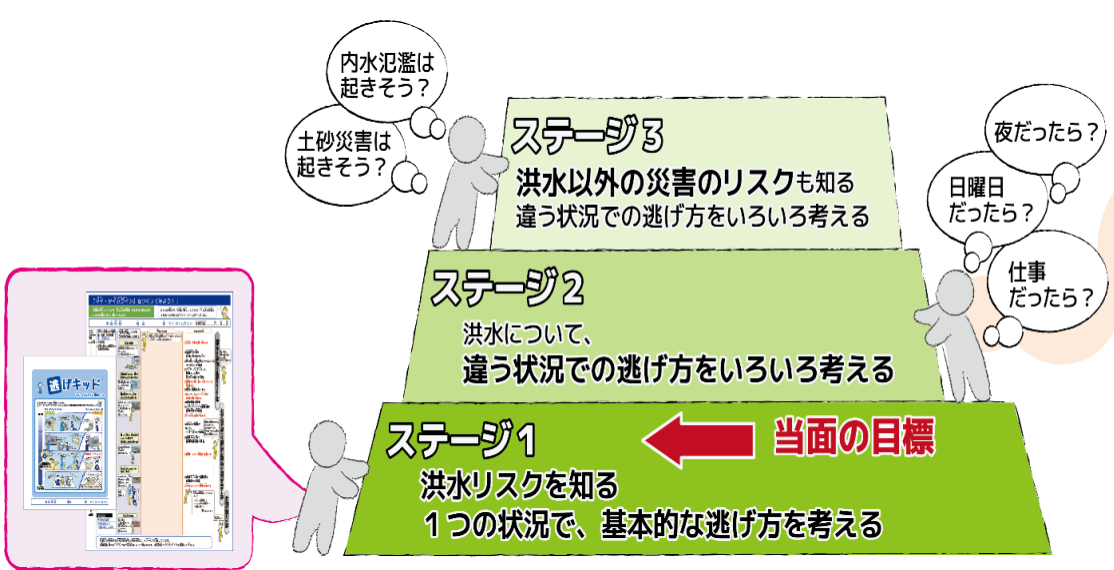
段階的なマイ・タイムライン検討

- マイ・タイムラインの取り組みを【ステージ1】・【ステージ2】・【ステージ3】の段階的に整理し、当面は、【ステージ1】を主眼に広めていく。
- なお、【ステージ1】の検討結果を基に、【ステージ2】・【ステージ3】の検討を住民一人ひとりが自ら考え進めていくことを促す必要がある。

【ステージ1】: 洪水ハザードマップを用いて、自分自身の洪水リスクと行政等から出される避難情報について知る。そして、想定する1つのシナリオに対し、自らの標準的な防災行動を考える過程を通じて、自らの避難行動をとりまとめる。

【ステージ2】: ステージ1で取りまとめた標準的な防災行動を、様々な状況(時間軸)を想定しながら、自身の防災行動をより実践的に自ら考える。(例: 休日or平日、昼or夜などの様々な時間軸)

【ステージ3】: 本ポイントブックに適用する洪水以外の洪水、内水氾濫、土砂災害などの降雨により一連で発生する災害に対して、防災行動を考える。



曜日	①平日/②休日
時間	①朝/②昼/③夜
自宅にいる人	①全員在宅 ②一人在宅 ③子供のみ...

⋮

「マイ・タイムライン実践ポイントブック(かんたん検討ガイド)」について

- マイ・タイムライン実践ポイントブックは、水防災に従事する職員等がマイ・タイムラインについて詳しく学ぶために作成したもの⇒「マイ・タイムラインガイド【Ver1】」に名称変更
- 「ワークショップ虎の巻」は、市区町村の水防災に従事する職員等が主体となり、マイ・タイムラインワークショップを実施できるよう、事例を参考に、手順、事前準備、参考となる資料等を取りまとめたもの
- 「マイ・タイムラインかんたん検討ガイド 普及のための手引き」は、マイ・タイムラインを広める人(市区町村職員、都道府県職員、国職員、学校教員、報道関係者、マイ・タイムラインリーダー等)が「マイ・タイムラインってこんなもの!」と教える(周知する)時に使用する「カタログ」をイメージして作成したもの

ポイントブック等を利用する場面と読み手(想定)

		マイ・タイムラインガイド 【ver.1.0】 「資料3」	ワークショップ 虎の巻 「資料4」	かんたん検討ガイド 普及のための手引き(カタログ) 「資料5」
利用場面		ワークショップ前などにマイ・タイムラインについて詳しく学ぶ際に利用	ワークショップを企画する際に利用	マイ・タイムラインの概要を知る／紹介する際に利用
読み手	市区町村の水防災に従事する職員	○	○	○
	首長	—	—	○
	都道府県の水防災及び河川管理に従事する職員	○	○	○
	国の水防災及び河川管理に従事する職員	○	○	○
	防災士等	—	—	○
	学校教員	—	—	○
	報道関係者	—	—	○

マイ・タイムラインのさらなる展開と強化に向けて(案)

【マイ・タイムラインの普及に向けた取組内容】

対象となる住民の
水災害リスクへの関心度

これまで

- 大河川の氾濫を想定したマイ・タイムラインの検討(鬼怒川を例に)
- 短時間でマイ・タイムラインの検討ができるツールの開発
- 各地域で、モデル的にマイ・タイムライン検討を実施

※これまで実施してきたマイ・タイムラインの検討は **ステージ0**

- 地域住民目線で水害リスク理解度を高めるため、水害リスク(ハザードマップ等)の整理
- 各地域で、講習会開催等によるマイ・タイムラインの周知(「＝地上戦」)
- 段階的なマイ・タイムラインの検討実施・および幅広い周知 → **【実践ポイントブック】**

ステージ1

・ハザードマップを活用し、
大河川を基本として、標準的なシナリオで検討を実施

※ポイントブックは、ステージ1を主眼に記載

ステージ2

- ・ステージ1の検討を基に、住民のために展開
- ・行動の時間軸を考慮
- ・内水・中小の河川も対象

ステージ3

・土砂災害等、他の災害も対象に展開

関心度の高い人

関心度の低い人

自身の水害リスク
理解度 高

現在

今後

- さらに洪水災害に関心を持ってもらうため、広報戦略等(「＝空中戦」)にも展開
 - ・関心度の低い人も含め、様々なステークホルダーに対象範囲を拡大
 - ・対象に適したメッセージによる、水災害リスクの我がごと化

マイ・タイムライン検討の目指すべき方向性

住民一人ひとりが、マイ・タイムラインを考えていく
～ 自分自身の水災害リスクを意識し、より確実に避難行動を取るために ～